

子どもの豊かな感性・思いやり・協調性を育む 自然とのふれあいを大切にする



訪問予定の園など

ホーエンブーヘン保育所・幼稚園(ハンブルク)

1974年に設立されたホーエンブーヘン幼稚園・保育所は、夢と冒険にあふれた園です。ずっと昔から生えている果樹の古木、在来植物の茂みや草はら、小川や池など、たくさんの自然の要素を取り入れた大きな園庭ビオトープは、子どもたちに刺激と発見に満ちた無限の遊びの機会を提供してくれます。

潜ったり、登ったり、隠れたり、五感を使って体験したり、変化に富んだ広い園庭で、子どもたちは活発にそして自由に動き回ります。隣接するホーエンブーヘン公園とアルスター川の水辺が、子どもたちの遊びの世界をさらに広げてくれます。この園は、子どもたちだけでなく、保護者にも大人気であることは言うまでもありません。



ハンブルク大学 教育学部 ウルヒヒ・ゲプハルト教授(ハンブルク)

1919年に創設されたハンブルク大学は2019年に100周年を迎える歴史ある大学です。ウルヒヒ・ゲプハルト教授は、この大学の教育学部で1995年より教鞭を執っています。自然による心身の発達へのプラスの影響などを研究テーマに、多くの著書や論文などを発表しています。連邦政府の自然豊かな園庭づくりのプロジェクトを促進するための冊子のインタビュー記事のなかで、自然体験は子どもの心身の発達を促し、健康を維持する効果がある、それは多くの調査結果が証明しているとしています。訪問では、幼時期の自然体験の意義や、子どもの精神の発達における自然の重要性などについて、研究データを示していただきお話をうかがいます。

ゾーネンヒューゲル保育所・幼稚園(ハンブルク)

ゾーネンヒューゲル保育所幼稚園には 50 人の子どもたちが通っています。1968 年の設立から半世紀、この地区のコミュニティや文化にしっかりと根付いて、たくさん子どもたちを見守ってきました。この園は、街中に位置するものの緑に豊かな環境と広い敷地に恵まれ、子どもたちの自由な遊びや学びを可能にしています。自然豊かな園庭(園庭ビオトープ)の隣にはバーナーの森があります。子どもたちは毎日どんな天気でも、園庭や森のなかでの外遊びを楽しみます。小さな研究者たちは、野生の生きものや草や木の観察や収集に余念がありません。こうした園づくりに保護者も大変満足しており、園庭の管理などにもとても協力的です。



ハーブルク森の保育所・幼稚園(ハンブルク)

園舎をもたず毎日森のなかで過ごす森の幼稚園はデンマークが発祥の地ですが、近年ドイツでも急増し、様々な形態のものも含めて現在国内に 2000 近くあると言われています。そのひとつ、ハーブルク森の幼稚園には、1 歳半から 6 歳までの子どもたち 48 名が通い、保育士と共に毎日森で遊んでいます。この園では、子どもたちのコミュニケーション能力や協調性、思いやりの心などを養うために、その日の行動や遊びのテーマを全員で話し合っていて決めています。森のなかには、生きものや草木が出す音や匂い、景色など、子どもたちにとって不思議な魅力にあふれています。子どもたちは森のなかでの五感と想像力を駆使した遊びを通じて、保護者も驚くほどに、日々多くを学び、成長しています。



アム・ジョーダン幼稚園(シュネヴェルディング)

アム・ジョーダン幼稚園は教会が運営する幼稚園です。「子どもは元来自然とつながりあっているべきもので、野外は試みや発見の宝庫」だとして、全ての子どもがそれぞれ自然とふれあい、素晴らしい発見ができるよう力を注いでいます。自然とふれあえる園庭づくりは、子どもたちのリクエストを取り入れて、保護者と一緒にプランを立て、地域のコミュニティの協力を得て行ないました。この園は、ドイツ連邦政府のプロジェクト「保育所幼稚園の子ども庭 - 一緒に多様性を発見しよう」の参加園です。この取り組みの趣旨を体現したかのように、園庭は生きものの多様性と発見に満ちています。保護者にも大好評で、入園希望者リストは毎年一杯です。



ヴァルドルフ幼稚園ブレーメン・ノルド (ブレーメン)

ヴァルドルフ幼稚園はシュタイナー教育を実践している園です。シュタイナー教育は、ルドルフ・シュタイナーがドイツで始めた教育実践で、その手法として芸術を重要視しているほか、乳幼児期の健全な体づくりのために、環境や暮らしのリズムが重要な要素だとしています。この園の園舎は、大小たくさんの木々や茂み、様々な野草が生える自然豊かな園庭に囲まれています。木々は、夏は気持ちのよい木陰をつくり、秋には栗やドングリ、ブナの実、リンゴなどを実らせます。子どもたちは茂みにかぐれたり、大きな木に登ったりして遊びます。こうした環境の中で、子どもたちは安心していろいろな生きものたちとふれあっています。保護者たちもこうした園づくりを高く評価しています。



自然保育所・幼稚園ココペリ (ハンブルク)

自然保育所・幼稚園ココペリは、子どもたちの自然とのふれあいを促すために 1998 年に開設されました。園庭ビオトープがある敷地内には、手作り感のある自然素材の遊具が置かれています。隣には、カールスヘーエ環境センターがあるほか、園の周辺には草原や森、小川、小さな湖もあります。子どもたちは、園庭での毎日の自然体験に加え、森にも定期的に出かけます。自然の中での遊びは子どもたちの感覚を磨き、心と体の発達を促します。さらに、年齢差や障害の有無にかかわらず家族のように一緒に過ごすことで、思いやりや協調性を育むインクルーシブ保育も実践しています。密な連携を通じて信頼関係を築いている保護者の評価も上々です。



カールスヘーエ環境センター (ハンブルク)

カールスヘーエ環境センターは、自然学習用の施設として 2008 年に設立されました。ハンブルク郊外にある 9 ヘクタールの敷地内には、草原、森、湿地、菜園などのほか、古い家畜小屋を最新鋭の環境技術を駆使して改造した近代的な建物もあり、自然などに関する趣向を凝らした展示が楽しめます。また、野外にある自然体験ステーションでは、ビオトープなどについて楽しく学ぶことができ、自然学習の場として多くの幼稚園・保育所が利用しています。センター施設の管理はハンブルク州気候保護財団が、活動等の運営は自然・環境教育作業共同体ハンブルグ州支部等が担当しています。また、施設内に併設されている素敵なカフェはランチに最適です。



※写真はイメージです。

※視察先は諸事情により変更になる場合がございます。予めご了承ください。

視察企画・協力

公益財団法人
日本生態系協会

171-0021 東京都豊島区西池袋 2-30-20 音羽ビル

TEL 03-5951-0244 FAX 03-5951-2974 <http://www.ecosys.or.jp/>